

平成30年5月31日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2017

課題番号：26381150

研究課題名（和文）中国における高等教育の財政構造の変動に関する実証研究－日本・アメリカとの比較

研究課題名（英文）Empirical analyses on financial structure of higher education in China-comparison with Japan and America

研究代表者

劉文君（Liu, Wenjun）

東洋大学・IR室・准教授

研究者番号：80508408

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：この研究は、高等教育の市場化の中で中国の高等教育の財政構造の変化を明らかにし、日本とアメリカとの異同を分析した。また大胆な試行が行われている中国の経験と教訓の日本への示唆を示した。さらに、大学の財政支出・資源配置と教育アウトカムと結びつくことが重要であり、これを実現するためにIRの機能の強化は必要であると提言した。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the change in the financial structure of higher education of China in the market of higher education, and analyzed the difference between Japan and the United States. It also suggested to the Japan of Chinese experience and lessons that have been made a daring attempt. In addition, it is important to connect the university's financial expenditure and resource allocation with education outcomes, and we suggest that the enhancement of IR functions is necessary to achieve this.

研究分野：高等教育学

キーワード：財政構造 大学経営 資源配分 学修成果 IR機能 大学評価 実証研究 比較研究

1. 研究開始当初の背景

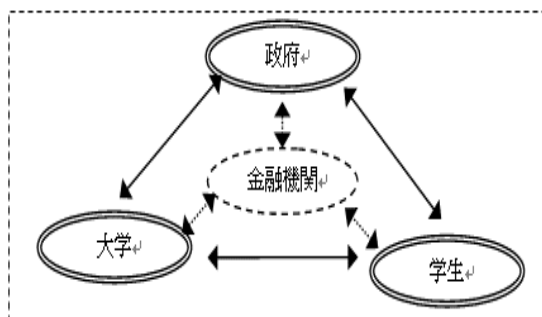
近年各国の高等教育は、量的拡大から質的保証という転換とともに、市場化という強い波にさらされている。高等教育の市場化は、拡大・変化する社会の需要により密接に対応し、より効率的に運営するとともに、さらに資源を社会から多元的に獲得する必要性を強めている。すなわち、高等教育の財政戦略が一層問われるようになっている。

2. 研究の目的

日本・アメリカ・中国は、高等教育の量的拡大から質的保証への転換という共通的な課題に直面している。とりわけ高等教育財政は、高等教育の量的拡大に伴う財政の逼迫により大きな転換を迫られている。本研究は、日本と中国、さらにアメリカとの比較を視野に入れた、実証的な分析によって、日本と中国の高等教育の財政的な構造のありかたについて、具体的な制度設計を含めた政策的提言をすることを目的とした。また、収集した調査データや成果を広く研究者に公開することによって、いっそうの研究の進展を図ることをもう一つの目的とした。

3. 研究の方法

高等教育の、市場化の中で直面する様々な財政的な課題を中心に、下図に示す枠組みにしたがい3つの市場ごとに分析を行うと設定した。



すなわち、政府と個別の大学、および学生の三つのアクターの間、それぞれかわる財政的な問題、さらに金融機関がその中で果たした役割について、主に①政策文書・資料

の整理・分析、②マクロデータの分析、③現地調査（インタビュー調査、アンケート調査）を行い、日本と中国とアメリカのそれぞれの特徴と問題を明らかにした。

4. 研究成果

以上の作業の結果として以下の点を明らかにした。

(1) 高等教育の市場化の中、日米中の大学の財政構造に共通的な動きがあると同時に、差異もあることを明らかにした。日米中とも私立大学（中国の独立学院を含む）の収入の大部分は学納金収入である。国公立大学でも日米中とも授業料が高騰してきており、日米中の国公立大学とも学納金に依存する体質を強めている。他方、公的補助の割合は、日米中の国公立大学とも減少を続けるという点で共通の傾向となっている。日本では、大学が学校債を発行し、一般のローンにより資金を調達することはかなり限られているが、アメリカや中国では一般的な資金調達方法となっている。日米中の国公立大学とも政府からの研究資金や競争的資金などの外部資金は増加し続けている。このことは大学間を競争させることによって、質の向上を図るという市場化政策の根幹をなすものである。日本では、大学が学校債を発行し、一般のローンにより資金を調達することはかなり限られているが、アメリカや中国では一般的な資金調達方法となっている。

(2) 個別大学における大学教育の改善の観点から、財政支出・資源配置と教育アウトカムとの関連について実証的分析が重要な課題であり、またその中で IR は重要な役割を果たすべきであることを示した。米国において、大学の IR は 1960 年代から発展し、教育改善・意思決定に不可欠な戦略立案を支援する部門として、IR 室が各高等教育機関に常設されている。近年、日本と中国の大学においても、IR の必要性に対する認識が急速に高まり、近年、IR 組織の設立、実践への

取組も増えつつある。アメリカにおける IR 組織は大学の経営と教育質の保証に重要な役割を果たしていることに対して、日本・中国の IR 活動は教育の改善に機能し始めつつあるが、いかに大学の財政支出・資源配置と教育アウトカをつなげるのが今後の課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

①劉文君「中日兩國頂尖大學畢業生走向之比較」澳門(マカオ)理工學報 19 卷、63-68 頁、査読あり、2016 年 7 月

②小林雅之・劉文君「日本型 IR の構築のために—全国大学 IR 調査から—」IDE 現代の高等教育 No. 586、17-22 頁、査読なし、2016 年 12 月

③劉文君「日本における IR の機能 —IR 組織の設置との関連に着目して—」筑波大学『大学研究』第 42 号、65-75 頁、査読あり、2016 年 3 月発行

④劉文君「日本的院校研究状況及其發揮的作用—与美国比較的視角」(「日本における IR の現状及び機能—アメリカとの比較」中国高等教育学会『中国高教研究』第 3 期、査読あり、2016 年 3 月。

⑤劉文君「試論大学教育的深度与广度—從日本學生調查分析得到的啓示」(「大学教育の『深さ』と『広さ』—日本學生調查分析からの示唆」上海對外經濟・貿易大学『教育研究』2015 年第 1 期、査読あり、1-5 頁、2015 年 6 月。

⑥小林雅之・劉文君「大学の財務基盤の強化のために—一日米中の比較から④」『大学経営人の養成』(IDE 現代の高等教育 No. 562)、査読あり、66-70 頁、2014 年 7 月。

⑦劉文君・小林雅之「大学の財務基盤の強化のために—一日米中の比較から③」『学生の国際交流プログラム』(IDE 現代の高等教育

No. 558)、査読あり、62-67 頁、2014 年 3 月。

⑧小林雅之・劉文君『日本型 IR 構築に向けて』(戦略的意思決定を支えるカレッジマネジメント 189)、査読なし、2014 年 12 月 (6-13 頁)。

⑨小林雅之・劉文君「大学の財務基盤の強化のために—一日米中の比較から②」『ラーニング・コモンズ—学習の支援と空間』(IDE 現代の高等教育 No. 556)、63-67 頁、査読あり、2013 年 12 月。

⑩小林雅之・劉文君「大学の財務基盤の強化のために—一日米中の比較から①」『高等教育と費用負担』(IDE 現代の高等教育 No. 555)、66-71 頁、査読あり、2013 年 11 月。

[学会発表] (計 17 件)

①劉文君「日本における大学院政策と現状・課題」2018 年 1 月、中国海洋大学講演、2018 年 1 月。

②劉文君「大学教育の効果—東洋大学卒業生調査からの知見」『東洋大学 IR シンポジウム「大学教育の効果—「働く力」の形成を中心に」』、2017 年 12 月 9 日。

③劉文君「日本における IR の現状と課題—全国大学 IR 調査を中心に」日本高等教育学会第 20 回大会・日中 IR ワークショップ(日本高等教育学会 IR ワーキンググループ・中国高等教育学会 IR 分会主催)、東北大学・2017 年 5 月 26 日

④劉文君「学習プロセスのモニタリングツールとしての学生調査」平成 28 年度 東洋大学 IR 室シンポジウム「高等教育における質的転換と IR の役割」2017 年 3 月 1 日

⑤劉文君「アジア大学における IR と教育の質的保証—日本、中国大陸・台湾を中心に」(日中高等教育研究ワークショップ「大学教育の質的保証と評価」)、2017 年 1 月

⑥劉文君「亚洲大学院校研究 (IR) 发展状况及其作用—日本与中国大陆・台湾之比较」“院校研究 (IR) 与高等教育质量提升”国际会议暨 2016 年中国院校研究年会、中国湖南

大学。

⑦劉文君「日本及び東洋大学における IR の取り組み」台湾評価協会主催 2015 年高等教育校務研究 (Institutional Research) 国際研討會、台湾国立大学 2015 年 9 月 21 日

⑧劉文君「東洋大学における IR 活動と FD 改善」2015 年度 全国私立大学 FD 連携フォーラム第 1 回パネルディスカッション、法政大学市ヶ谷キャンパス、2015 年 6 月 13 日

⑨劉文君「日本における IR の機能—IR 組織の設置との関連に着目して—」日本高等教育学会、2016 年 5 月。

⑩劉文君「経営課題に応える自校研究～自校発見が経営を強化する～」Rcus 大学マネジメントワークショップ「自校理解がマネジメント力を高める」筑波大学、2016 年 2 月。

⑪劉文君「日本全球化教育政策与大学教育現状」(「日本におけるグローバル政策と大学教育現状」、中国高等教育学会及び高等教育国際フォーラム、中国珠海、2015 年 11 月。

⑫劉文君「『高等教育研究』と『機関研究 (IR)』—日中高等教育研究機関と IR 組織の機能比較、『IR と高等教育総合改革』学術フォーラム及び中国高等教育学会 IR 分会 2015 年大会」中国高等教育学会 IR 分会主催、中国済南、2015 年 7 月 12 日。

⑬劉文君「グローバル人材育成における大学教育の効果」日本高等教育学会第 17 回大会、2015 年 6 月 27 日。

⑭劉文君「日本高等教育国際化政策の新動向—“Top Global University Project”を中心に」中国海洋大学、2015 年 5 月 25 日 (招聘講演)。

⑮劉文君「日本的“院校研究”(IR) 与大学管理—与美国比較的視角(「日本の IR と大学管理—アメリカと比較的視角」)、2014 年高等教育国際フォーラム (中国高等教育学会主催・武漢)、2014 年 10 月。

⑯劉文君「日本における IR の現状と課題」国際シンポジウム「大学の教育改革と IR の

役割」2014 年 7 月

⑰劉文君他「質保証に向けた IR の役割：日米比較の視点から」日本高等教育学会第 16 回大会、2014 年 5 月 28 日。

〔図書〕(計 12 件)

①劉文君「第 1 章 5. IR 組織の役割」(P. 7-8)、「第 2 章 5. 私立大学における IR の課題と提言—コスト面」(P. 20-21)、一般社団法人日本私立大学連盟『これまでの IR、これからの IR』、2018 年 3 月。

②劉文君他『学生からみた東洋大学の教育』東洋大学 IR 室、2018 年 3 月。

③劉文君他『東洋大学の新生の特徴と大学への期待』東洋大学 IR 室、2018 年 3 月。

④劉文君「「学習プロセスのモニタリングツールとしての学生調査」東洋大学 IR 室シンポジウム報告書『高等教育における質的転換と IR の役割』、85-105 頁、2017 年 6 月。

⑤劉文君「アジアの大学における IR と教育の質的保証」日中高等教育研究ワークショップ報告書『大学の質的保証と評価』、21-25 頁、2017 年 1 月 11 日。

⑥劉文君「(2) 学生生活費等について ①大学学部」日本学生支援機構『平成 26 年度学生生活調査分析結果』、査読無、2016 年 3 月。

⑦劉文君「日本の大学における IR の現状」小林雅之編『大学の IR』189-194 頁、慶応義塾大学出版社、査読無、2016 年 3 月。

⑧劉文君「(2) 学生生活費等について ①大学学部」日本学生支援機構『平成 26 年度学生生活調査分析結果』、2016 年 3 月。

⑨劉文君「大学教育とグローバル人材育成」日中高等教育研究ワークショップ報告書『大学教育と職業』、26-30 頁、2015 年 4 月。

⑩劉文君「第 1 章 イギリスにおける高等教育改革の動向」日本学生支援機構『イギリスにおける高等教育の学生支援施策』1-10 頁、2015 年 3 月。

⑪劉文君「日本における IR—背景・現状・課題」、東洋大学 IR 室設立記念国際シンポジウ

ム報告書『大学の教育改革と IR の役割』、
127-136 頁、2015 年 3 月。

⑫劉文君「日本の大学における I R の現状—
全国大学アンケート調査から」平成24-25年度
文部科学省大学改革推進委託事業『大学にお
ける I R (インスティテューショナル・リサー
チ)の現状と在り方に関する調査研究報告書』
40-49頁、査読無、2014年3月。

⑬小林雅之・劉文君「高等教育と職業能力と
の関連—大学卒業生調査結果」(平成23-24
年度)文部科学省特別研究促進費『大学への
投資効果と新時代における大学システムの在
り方に関する調査研究』(徳永保研究代表) 査
読無、2014年3月。

⑭小林雅之・劉文君「第 6 章 教育機会・教
育負担と所得階層の関連」平成 25 年度文部
科学省委託事業『高等教育機関への進学時の
家計負担に関する調査研究』調査研究報告書、
査読無、2014 年 3 月。

[その他]

劉文君「中国高等教育の事情」『日本経済
新聞』(朝刊) 2015 年 5 月 4 日付 (2,000 字)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

劉 文 君 (LIU, Wen jun)
東洋大学 准教授

研究者番号 : 80508408

(2) 研究分担者

()

研究者番号 :

(3) 連携研究者

()

研究者番号 :

(4) 研究協力者

()